

資料2－2

地域大学振興に関する有識者会議 ～ 第4回意見交換

2025年10月22日
三井住友フィナンシャルグループ
社会的価値創造推進部
高市 邦仁



SUMITOMO MITSUI
FINANCIAL GROUP

1. 地域構想推進プラットフォームについて

【コーディネーター】

- 互いの「言語」の理解
- 推進力・調整力・実行力
- 地域への想い

⇒ 要件を充足する個人の探索は困難
補完し合える体制、連携（集団）
の必要性

【好事例の蓄積・展開】

- 各地域での取組事例やノウハウの共有の促進
- 大学間（地域内・地域間）の連携の促進

⇒ 事例やノウハウ等を共有し、
連携を促進するための場の必要性

【従来の役割】

- **資金調達、資金運用**の支援
- **金融経済教育**等の提供
- 学生の**採用・就職**での連携



【これからの役割】

- 大学の変革を**支える**
- 大学と各ステークホルダーを**繋ぐ**
- 次代を担う学生、研究者を**応援する**

- **地域や社会の成長に貢献**
- **地域をリードする産業の強化・拡大に貢献**
- **地域や社会と繋がり、教育・研究とビジネスを多角的に動かす人材育成に貢献**

※ 社会全体的な動きの拡がり、認知度向上が必要

2. 地域との繋がり方についての事例（大学との連携に限らず）

（1）兵庫県神戸市しあわせの村の活性化に向けた官民連携による取り組み

- 兵庫県神戸市が所有する「しあわせの村」において、**ソーシャルインクルージョンの実現に向けた取り組み**を進めるため、**神戸市と民間企業による共創プロジェクト**として発足した「わんぱく！プロジェクト」に参画
- 時間をかけて**神戸市（各局横断）と多くの企業、大学等で議論**。**SMBCの担当者が議論をリードするアイデア出しの定例会議**も開催。村の魅力を引出すため、出来ることから始めようと実証イベント等を実現

■「わんぱく！プロジェクト」について

神戸市と民間企業各社が連携し 2024 年に始動した、「しあわせの村を、世界で一番わんぱくな ONE PARK にする。」をコンセプトとするプロジェクトです。「子どもも大人もお年寄りも。ここならみんなわんぱくに。みんなが交わるわんぱく。」を合言葉に、「しあわせの村」の持続的な未来に向けて、官民連携によるソーシャルインクルージョンの実現に向けた取り組みや活用策の検討、長期的な視点で村の魅力を高める取り組みを実施しています。



参考：しあわせの村について（神戸市北区しあわせの村1番）

広大な緑の中で子どもから大人まで、障がいのある方もだれもが楽しめる施設として、神戸市が1989年4月に設置。

村内（約205ha）は、都市公園と健康福祉拠点で構成され、福祉・医療施設をはじめ、宿泊施設・温泉・プール・体育館・トレーニングジム・テニスコート・馬事公苑・キャンプ場・トリム園地・芝生広場・日本庭園などが位置しています。

https://www.smbc.co.jp/news/pdf/j20240927_02.pdf



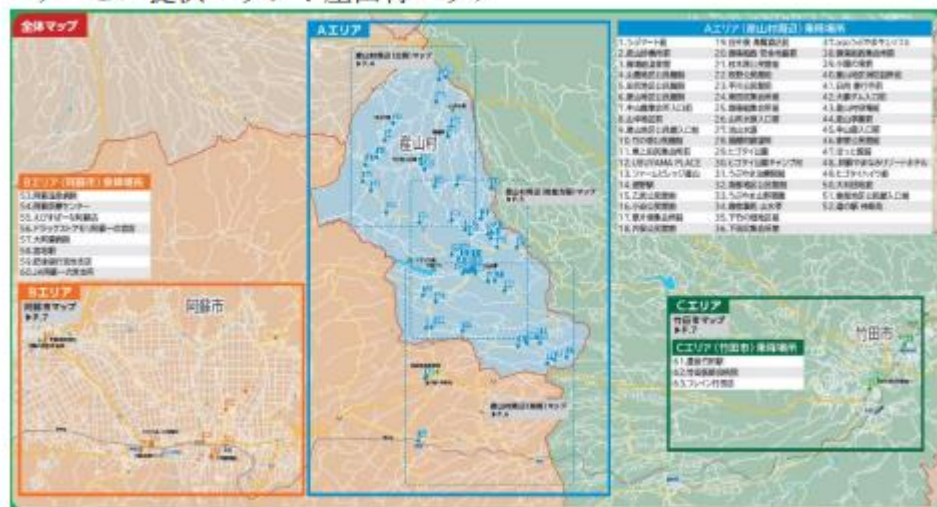
(2) 熊本県産山村での地域交通再構築に向けた取り組み

- 熊本県産山村において、「令和6年度共創・MaaS実証プロジェクト（※）」を活用し、**村民が安心して暮らし続けられる地域交通の構築**を目指し、**オンデマンド交通サービス活用による実証実験**を実施
- SMBCの社員が**お客さまから産山村の地域活性化についてご相談を頂き**、その後、議論を深める中で、行内の**各拠点とも連携し、事業者をご紹介**

（※）国土交通省が推進する地域公共交通確保維持改善事業。交通を地域のくらしと一体として捉え、地域公共交通の維持・活性化を目的として複数の主体が連携して行う取り組み。その萌芽となる交通の実証事業における運行経費等を補助するとともに、実地伴走型のフォローを行うことにより、必要な課題等を整理し、地域公共交通の持続可能性を高めていくことを目指す

<サービス内容>

・サービス提供エリア：産山村エリア



- ・サービス提供期間：2024年10月1日（火）～
 - ・サービス提供時間：8：00～18：30
 - ・車両：お客様5名乗車可の車両
 - ・利用方法：アプリまたは電話（mobi カスタマーサポート：050-2018-0107、営業時間：9：00～19：00）
- ※9：00～10：00 はお電話が繋がりにくい場合がございます。

https://www.smbc.co.jp/news/pdf/j20241001_01.pdf

(3) SMBC京大スタジオにおける京都大学との取組み

- 京都大学内に「**SMBC京大スタジオ**」を設置。社会課題を起点に研究テーマを設定し、**京都大学の研究者とSMBCグループの日本総合研究所の研究員が学際的な共同研究**を行い、人々の意識や行動を変えていくための**発信、事業創出**に取組み
- SMBCと日本総合研究所より担当者が京都大学に出向。彼らが事業のシーズを見つけるため、大学研究室のドアを日々叩いて回り、京大の研究者と議論。従来の寄付や共同研究にとどまらない、**深い産学連携の枠組み**であり、**民間企業からの専従者が大学の研究者と目線を丁寧に合わせながら取組む**点が、成果を創出する上での特長

【現在の研究テーマ】



発達障害特性がある人材の 就労における能力発揮支援

発達障害特性のある人々の多様性が認められ、得意分野で能力を発揮し活躍できる環境整備を目指します。



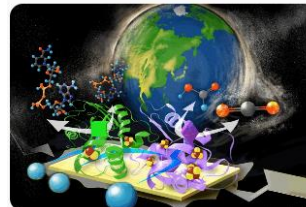
貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える 教育アプローチの研究開発と普及

子どもたちが人生の困難を乗り越えるための教育アプローチを開発・普及します。



誰もが生前・死後の尊厳を保つための 持続可能な身じまい・意思決定とその支援

人生の身じまいの段階において個々人の尊厳を保ち、ありたい姿を実現するための意思決定の支え方を考えます。



酵素を活用したどこでも誰でも使える CO₂資源化技術の開発・実装

酵素の力を活用し、常温・常圧でCO₂を資源化することで、どこでも誰でも使える持続可能な脱炭素社会の実現を目指します。



日本の診療現場に最適化された 国産の医療特化型言語A Iモデルの社会実装

医療文書を半自動作成するA Iの開発・実装により、医療従事者が診療に集中できる医療現場を実現します。

(※「SMBC京大スタジオ」ホームページより抜粋)